

岩手大学震災復興推進レター

「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol.14

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

県政懇談会「がんばろう！岩手」意見交換会に参加

岩手県の達増拓也知事が、被災地の復興や支援に取り組んでいる方々の声を聞き、復興に向かって県民一体となって取り組む意識を醸成する機会として設けている「がんばろう！岩手」意見交換会が、平成25年1月25日（金）に、岩手大学を会場に開催されました。

意見交換会では、被災地で三陸復興推進機構の一員として支援活動を行っている学生9名が参加するとともに、学習支援班の松村侑衣子さん（教育学部3年）から、秋田県横手市と釜石市の小中学生が参加した「少年リーダー交流キャンプ」にボランティアとして同行した際の活動が報告されました。

また、生活支援部門・ボランティア班として活動している大学公認ボランティア団体「天気輪の柱」の小野寺夏菜さん（農学部4年）からは、宮古市内での活動が報告されるとともに、同じく公認ボランティア団体「もりもり☆岩手」の神峯紅音さん（農学部3年）からも、陸前高田市災害ボランティアセンターでの運営補助や子ども支援みちくさルームでの活動が報告されました。

その後の意見交換では、参加した学生から、「ボランティア活動を継続していくうちに現地の方々から、次第に声をかけられるようになった」「ボランティア活動を継続するために新入生にも活動内容をアピールし、新たなスタッフを加えていきたい」等の意見が出され、これを受けて達増岩手県知事から、「今後も継続して内陸と沿岸のつなぎ役として取り組んで欲しい」との期待が寄せられました。



達増岩手県知事との意見交換の様子

三陸水産加工品のアジア向けパッケージデザイン開発と流通拡大支援を行っています

三陸復興推進機構水産復興推進部門マーケティング戦略班（班長：対馬正秋地域連携推進センター教授）では、水産復興のためのブランド戦略や国内外での流通戦略立案、商品開発、起業化の支援に取り組んでいます。

岩手大学は、平成24年11月1日付けで、台湾の高雄師範大学並びに韓国の忠北大学と「三陸水産加工品の韓国並びに台湾市場にマッチしたパッケージデザインの開発」に関する共同研究契約を締結しました。

その一環として、平成25年1月28日～31日の期間、デザインの専門家である高雄師範大学の唐硯漁（タン・イエンウイ）教授、忠北大学の金牟弘（キム・ジェホン）教授が来日し、アジアにも通用する SANRIKU ブランドのデザイン開発について、市場での商品視察や現地企業との意見交換を行いました。

今回の打ち合わせではマーケティング戦略班でデザイン担当の田中隆充教育学部教授から日本国内における商品デザインの動向について説明を行いました。



高雄師範大学と忠北大学の両教授からは、台湾や韓国の食品のパッケージデザインの色使いや訴求ポイントの日本との違いなどについて報告がありました。

釜石市地域の水産加工会社2社を訪問した際には、今後両国に向けて商品を輸出する際の商品企画やパッケージデザインの方策や現地のバイヤーとのマッチング方法等について意見交換を行いました。

今回の調査では、釜石市地域で甚大な被害を受けた港湾周辺や、現在、平田地区に建設中の岩手大学（新）釜石サテライト（三陸復興推進機構 釜石サテライト）の視察も行いました。

今後、マーケティング戦略班では、共同研究先である台湾の高雄師範大学、韓国の忠北大学の協力を得ながら、海外に通じる SANRIKU ブランドの商品開発と現地の流通パートナーの創出支援を進めていきます。



岩手大学復興人材マッチングプロジェクト

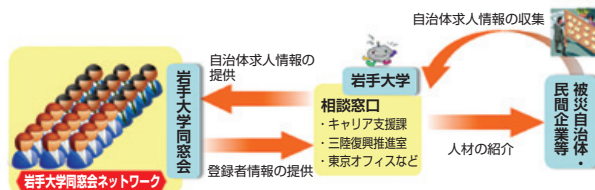
復興まちづくりが本格化している被災地において、まちづくり施策に従事する専門的知識・経験を有する人材の確保が大きな課題となっています。

岩手大学では、その課題解決の方策の一つとして、岩手大学が有する同窓会ネットワークを活用して有為な人材を被災地（県・市町村・民間企業・団体等）に紹介し、被災地の人材ニーズと専門家のシーズのマッチングを図るプロジェクトに取り組んでいます。

- プロジェクトに関する問い合わせ先
岩手大学三陸復興推進室
電話：019-621-6629、FAX：019-621-6995、e-mail:sanriku@iwate-u.ac.jp
- 復興人材マッチングプロジェクト協力同窓会
(岩手大学工学部同窓会一祐会建設系科会東京支部きたかみ会会員の皆様はこちらもご覧下さい)
岩手大学工学部同窓会一祐会建設系科会東京支部きたかみ会 HP
<http://kitakamikaihp.jimdo.com/> 東日本大震災支援ページ /

岩手大学復興人材マッチングプロジェクト

復興まちづくりが本格化している被災地において、まちづくり施策に従事する専門的知識・経験を有する人材の確保が大きな課題となっています。
岩手大学では、その課題解決の方策の一つとして、岩手大学が有する同窓会ネットワークを活用して有為な人材を被災地（県・市町村・民間企業・団体等）に紹介し、被災地の人材ニーズと専門家のシーズのマッチングを図る仕組みを構築する。



- 人材ニーズ・シーズのマッチングにより、復興まちづくりに関する人材不足を解消
- 岩手大学が紹介する専門家人材を核として、産学官連携を推進
- ➡ 三陸地域の復興を加速させ、一日も早い自立化に結びつける

岩手大学三陸復興プロジェクト

岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が丸となって東日本大震災復興に取り組んでいます。今回は、津波で被災した河口・沿岸域の生態システムについて調査研究を実施している水圏環境調査班の取り組みの一例をご紹介します。

森川海のつながりと 河口・沿岸域の生態システムを明らかに

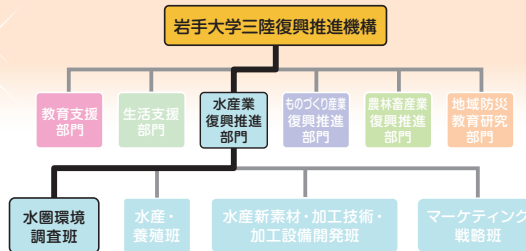
岩手大学三陸復興推進機構 水産業復興推進部門 水圏環境調査班
竹原 明秀(人文社会科学部 教授)

河口・沿岸域の豊かな水産資源は、背後に広がる陸上生態系によって支えられていることが知られています。そこで、河川の集水域と河口・沿岸域を一連のつながりとしてとらえ、森林や耕作地から発生する様々な化学物質を追跡し、水産資源とどのように関係しているのかを解明しています。

現在、岩手大学から10名、東京海洋大学から4名の教員が本研究に携わり、三陸沿岸域に流入する河川の集水域において様々な調査研究が進行中です。いくつかを挙げますと、次のようなものがあります。摂待川流域における森林構造・生産量・動態と化学物質の蓄積量との関係、鷗住居川上流域における森林土壌の化学成分と河川水質の関係、気仙川水系における定期的な流量と水質の観測から沿岸域に流入する化学物質の負荷量とその変動特性などです。また、気仙川流域や北上川流域



土壌懸濁液の分析



では環境放射線を計測し、セシウムイオンや残留放射線の吸着・除染方法の検討も行っています。さらに三陸地域の自然環境を把握するためにミュージアムに保管している植物資料の整理と精査、津波の影響を受けた浸水域や河口における消失・新規侵入した生物群集の動態なども重要な研究課題となっています。



流量・水質の定期観測

いずれの研究も水産養殖業の復興・再生にとどまらず、地域固有の自然環境・人間活動からなる生態システムの再構築にも寄与すると考えています。例えば、第1回アジア海洋生物国際シンポジウム(2012年12月、タイ・プーケット)では、三陸沿岸の干潟における底生生物の回復状況を講演し、地震による津波被害と海洋生物の関係を議論しました。さらにセシウムイオンの吸着・固定化に関する試験成果の公表、被災海岸林や干潟再生の試験研究への参画、様々な復興事業における自然環境や生物群集への影響に関するアドバイスなどもあります。以上から、三陸沿岸の森・川・海がつながり、水産養殖業の再生とともに地域固有の生態システムを明らかにすることで、地域の復興に貢献することを目指しています。

釜石サテライトだより

寒さの厳しい岩手県にも、ようやく冬の終わりが感じられる季節がやってきました。まだまだ沿岸の風は冷たいですが、あたたかい春が来るのをじっと待つこの季節もなかなかいいものです。

それでは釜石サテライトより沿岸での活動を皆様にお知らせします。

●新センター工事の進捗

昨年8月より着工している三陸復興推進機構(新)釜石サテライトの工事も、来年度の開所に向けて急ピッチで進んでいます。現在は、外装・内装工事が同時に施工され、配線等の建物内部の電気設備工事も着々と進められています。そんな中、2月1日に達増岩手県知事の現場視察が行われました。



現場視察する達増知事と説明する岩手大学関係者

会議室において、岩渕理事より岩手大学の現在の活動状況と今後の取り組みについて説明し、その後は、工事中の建物内を案内し、工事の進捗状況などを説明しました。知事からは、4月からこの新しいサテライトが沿岸地域での活動の拠点となることを期待しているとの話がありました。

岩手大学は来年度以降も継続した調査・研究により、学術的な面からも沿岸地域の復興を支援していきます。

●高度ものづくり人材育成講座in釜石

現在、釜石サテライトでは「高度ものづくり人材育成講座in釜石」を開催中です。(財)釜石・大槌地域産業育成センター、日本技術士会、岩手マイスター事務局等のご協力のもと、昨年11月27日に第1回を開催して以降、第2回を12月に、第3回を1月に開催いたしました。初回は本学工学部教員による講演、第2、3回は日本技術士会から講師を迎えビジネスプランニングと題して事業計画の策定、経営戦略や事業創造についての講義を行いました。



第2回の様子

3月26日には第4回を開催する予定です。本学教員による金属加工の技術指導を、実際に加工機械を使用しながら行う予定ですので、関係者の皆様、ご興味のある方はふるってご参加いただきたいと思います。

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

連絡先 釜石サテライト

〒026-0031 岩手県釜石市鈴子町15-2 釜石市教育センター5階
TEL:0193-22-4420/0193-22-4426
E-mail:kamaishi@iwate-u.ac.jp
URL:<http://www.iwate-u.ac.jp/reconstruct/kamaishi/>

Information

東日本大震災で被災された方へ～無料心理相談のお知らせ～

岩手大学人文社会科学部 ころこの相談センターでは、東日本大震災で被災された方を対象に、臨床心理士による**無料心理相談**を行います。「怖い夢を見る」、「新しい学校や職場に馴染めない」、「子供や両親のことが心配」など、震災に関わるさまざまな心理的問題についてのご相談をお受けいたします。どうぞお気軽にご相談下さい。

相談日：隔週月曜日 10:00～16:30(完全予約制) お電話でご予約ください。
料 金：東日本大震災被災者は無料(一般の利用者は有料)
場 所：岩手大学人文社会科学部 ころこの相談センター
(盛岡市上田3丁目18-34 岩手大学人文社会科学部6号館)

ご予約・お問い合わせ先

岩手大学人文社会科学部 ころこの相談センター TEL 019-621-6848
電話受付時間 月～金 10:30～12:30(祝祭日、年末年始期間を除く)
ころこの相談センターについては下記URLをご参照ください。
<http://jinsha.iwate-u.ac.jp/kokoro/kokoro.html>

編集後記

積もった雪が溶けたと思うとまた積もるという日々が続いています。相変わらず冬空が続く盛岡ですが、卒業式など学内行事の準備を進めたり、3月に竣工予定の(新)釜石サテライトの工事の進捗状況を耳にすると、春が近づいているのが感じられます。(新)釜石サテライトは特に水産業の6次産業化につながる研究や教育の拠点として整備されますので、今後の活躍にどうぞご期待下さい。